

《開幕》

六本木クロッシング2016展： 僕の身体、あなたの声^{からだ}

2016年3月26日(土)ー7月10日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

アーティストたちのまなざしを通して描かれる、歴史や身体、性、風景の新たなイメージ

森美術館は、2016年3月26日(土)から7月10日(日)まで、「六本木クロッシング2016展：僕の身体、あなたの声^{からだ}」を開催します。

「六本木クロッシング」は、森美術館が3年に一度、日本のアートシーンを総覧する定点観測的な展覧会として2004年から開催してきたシリーズ展です。5回目となる本展では、日本、韓国、台湾の4人のキュレーターによって選ばれた、20組のアーティストのバラエティーに富んだ表現を通して、日本の現代アートを幅広い視野から検証し、今日の社会とアートについて考察します。

今日、グローバル化やITの発達、SNSの普及により、個人による情報発信が可能となり、ネットを介したバーチャルなコミュニケーションの機会が増大しています。このことは自己と他者の関係性にも大きく影響を与え、これまで当たり前のよう考えられてきた社会制度や世の中に存在するさまざまな枠組み、価値観の見直しが求められています。

本展では、独自のリサーチにより、個の事象やストーリーにスポットを当てる作品を制作しているアーティストたちのまなざしを通して、歴史や身体、性、風景についての新たなイメージを描き出します。「私」とは誰だろう。私の身体はどのように歴史や他者とつながっているのだろう。過去と未来、自己と他者が交錯する感覚を味わいながら、世界と自分との新たな関係性を探ります。



ミヤギフトシ 《花の名前》
2015年
シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サウンド
20分59秒



長谷川 愛 《(不)可能な子供：10歳の誕生日》
2015年
デジタルプリント
90 × 135 cm

プレスリリース

広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■ 出展アーティスト

※アーティスト・グループ名/姓のアルファベット順

ジェイ・チュン&キュウ・タケキ・マエダ	1976年米国ウィスコンシン州生まれ、ベルリン在住[チュン]/ 1977年愛知生まれ、ベルリン在住[マエダ]
藤井 光	1976年東京生まれ、東京在住
後藤靖香	1982年広島生まれ、広島在住
長谷川 愛	1979年静岡生まれ、米国マサチューセッツ州在住
石川竜一	1984年沖縄生まれ、沖縄在住
片山真理	1987年埼玉生まれ、群馬・東京在住
小林エリカ	1978年東京生まれ、東京在住
ナイル・ケティング	1989年神奈川生まれ、ベルリン在住
松川朋奈	1987年愛知生まれ、千葉在住
ミヤギフトシ	1981年沖縄生まれ、東京在住
毛利悠子	1980年神奈川生まれ、東京在住
百瀬 文	1988年東京生まれ、東京在住
西原 尚	1976年広島生まれ、東京在住
野村和弘	1958年高知生まれ、神奈川在住
佐々 瞬	1986年宮城生まれ、宮城・東京在住
さわひらき	1977年石川生まれ、ロンドン在住
志村信裕	1982年東京生まれ、山口在住
高山 明	1969年埼玉生まれ、埼玉在住
山城大督	1983年大阪生まれ、愛知在住
ジュン・ヤン	1975年中国、青田生まれ、ウィーン・台北・横浜在住

■ 開催概要

展覧会名: 六本木クロッシング2016展: 僕の身体、あなたの声^{からだ}

主催: 森美術館

後援: オーストリア大使館 **協賛:** 株式会社大林組 **協力:** シャンパーニュ ボメリー

制作協力: 株式会社 流、キャノン株式会社、ソニハウス

企画: 荒木夏実(森美術館キュレーター)

キム・ソンジョン(アートソングセンターディレクター、Samusoディレクター)

小澤慶介(キュレーター/特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト])

ウー・ダークン(台北国際芸術村ディレクター)

会期: 2016年3月26日(土)ー7月10日(日)

会場: 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

開館時間: 10:00-22:00 | 火 10:00-17:00 *ただし5/3(火・祝)は22:00まで

*いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

入館料: 一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳-中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円

*表示料金に消費税込 *本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(屋上 スカイデッキを除く)

*4月15日(金)はイベント開催のため展望台 東京シティビューは終日休館となります

*屋上 スカイデッキへは別途料金(500円)がかかります

一般のお問い合わせ: Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

プレスリリース 広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■ 出展作品・テーマ

〔1〕 自己と他者、身体とアイデンティティの関係性

沖縄の人々や風景に、ときとして撮影者と被写体の境界を超えるほど接近する石川竜一、自らの姿とその分身のような人形を重ねあわせる片山真理、他者と自分との間に奇妙な関係性を設定する百瀬文、取材した人の身体の一部や所持品をモチーフに絵画を描く松川朋奈。自己と他者の境界を踏み越えて行くような表現を通して、「自分」を定義する身体性やアイデンティティについて考察します。



“これまでさまざまな素材を使って、手縫いの等身大オブジェを制作してきました。今回は分身のようなその作品の再解釈を、自分なりにしてみようと思い、制作に向かいました。”

—— 片山真理

片山真理
《you're mine #001》
2014年
ラムダプリント 104.8 × 162 cm
個人蔵
Courtesy: TRAUMARIS, Tokyo



“SNSの普及により不特定多数と簡単に繋がることができるようになったと同時に、個人が持つ裏の感情のようなものが鮮明に見えるようになりました。着飾ることも、美容整形などで自分の身体を激変させることも容易になった今、私たちは自分や他者をどのように定義していくべきなのでしょう。今回の新作は、六本木に住む、もしくは働く女性を対象に、インタビューを通して現れた「痕跡」から浮かび上がってくる、彼女たちの姿を描きました。”

—— 松川朋奈

松川朋奈
《朝4時までは待っていて》
2015年 木製パネルに油彩 130.3 × 194 cm
Courtesy: Yuka Tsuruno Gallery, Tokyo

〔2〕 過去との新たな出会い

リサーチを通して日本とアジアの国々の歴史に焦点を当てる藤井光、親戚など身近な人の話を通して、ある人物の戦時中の様子を仔細に調べ、想像力豊かに独自の視点でその情景を描き上げる後藤靖香、過去の人物や出来事に自らを重ねる佐々瞬、アラン・レネ監督の『ヒロシマ・モナムール』へのオマージュとして広島を舞台にした映像を撮るジュン・ヤンなど、過去に新たな光を当てそれを今に繋げる作品が登場します。



“出品作は、いずれも祖父や大祖父の戦時中の青春時代を描いたものです。歴史に埋もれてしまった物語を調べて描くうちに、人間の弱さも、それを乗り越えようとする覚悟も、全てを肯定したいと思い、人間賛歌という貫いたコンセプトを自覚するようになりました。”

—— 後藤靖香

後藤靖香
《寄書》
2008年
油彩、アクリル、墨汁、カンバス 304 × 480 cm
所蔵：国立国際美術館、大阪



“自分が経験していない事柄とどう繋がりをうのか、それを身体や行為から捉えてみることに関心があります。新作は、戦後から現在まで刊行されている雑誌の編集長をテーマに、旗をモチーフにした作品です。”

—— 佐々瞬

佐々瞬
《旗の行方》
2016年
2チャンネル・ビデオ、旗
12分

プレスリリース

広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

[3] 独自の視点で描く、オルタナティブな物語

フィクションとドキュメンタリーが交錯する物語を作る小林エリカ、メインストリームの歴史に隠されたドラマに焦点を当てるナイル・ケティング、日本で働く労働者の声を拾う高山明、グローバリズムから隔絶された、失われつつある風景を描く志村信裕など、独自の視点によって浮かび上がる、語られてこなかったもうひとつのストーリーが展開されます。



“ひとりひとりのストーリーから社会や歴史を見てみたいと、私はいつも考えています。出品作のタイトルは、《日出する》です。核融合で放たれる太陽の光が地球へ届くまでの時間は 8 分 19 秒。世界ではじめてアメリカのトリニティーサイトで行われた核実験と、私の母洋子の歴史、時間をめぐる作品です。”

— 小林エリカ

小林エリカ
《彼女のポートレート》
2015年
鉛筆、コットンペーパー
21.6×21.6 cm



“1900年代初期、お互いを知らない発明家達が、同時期に同じような電球のモデルを発明していたという話から着想を得ています。これは私に、神話との関係を思い浮かべさせました。これらのリサーチをもとに、インスタレーションを通して、歴史、環境、ナラティブが変わった、ひとつの身体を取り巻く新しい風景を生み出せたらと考えています。”

— ナイル・ケティング

ナイル・ケティング 《マグニチュード》
2016年 ミクスト・メディア サイズ可変
Courtesy: YAMAMOTO GENDAI, Tokyo

[4] 人と「モノ」の新たな関係性を探る

奇妙な物体が生き物のように動く作品を制作する西原尚、来館者の参加を促すインスタレーションを作る野村和弘、擬人化されたモノが主役のステージを見せる山城大督。パフォーマンス的要素を伴うインタラクティブな表現のなかで、モノたちは装置や楽器などの機能性を超えて生き生きと活躍し、生命の営みや他者との共存への考察を促します。



“音楽を聞いて体を動かしたくなるのはなぜだろう。うれしいときに自然に体が動くのは、どんな仕組みなのだろうか。うつくしい花や巨大な岩などを見たとき、体が踊るように反応するのはなぜなのだろう。心が踊るというが、心は本当に踊るのだろうか。これらの現象を再現し体験するための装置として、《プリンプリン》を制作しました。外からの刺激が、どのように体の中で動きへと変換されるかを考えることは、同時に、自分というものの境界を考えるきっかけでもあると思います。”

— 西原 尚

西原 尚
《プリンプリン》
2015年 ミクスト・メディア インスタレーション
展示風景：「アートいちばら2015春 JIAAES(旧里見小学校)」、千葉、2015年 撮影：野口浩史



“「擬人化／感情移入」をテーマに新作インスタレーションを制作します。このテーマは「いかに他者の痛み・喜び・悲しみ・怒りを自分の事として想像できるか」という私の興味と繋がるものです。東日本大震災以降の「生活」と、息子の「誕生」を通して、このような感情への興味が湧くようになりました。”

— 山城大督

山城大督
《トーキング・ライツ》
2016年
インスタレーション

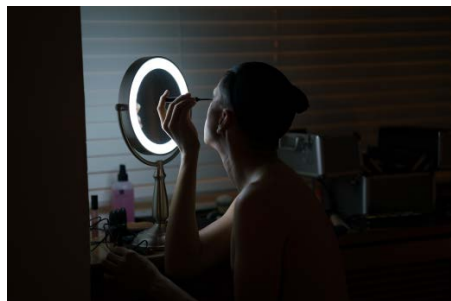
プレスリリース

広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

[5] 変容するジェンダーへの意識と未来の可能性

神話や音楽に現れるホモセクシャリティのイメージを拾いあげ、現代の問題に重ねながら幻想的なフィクションを作り上げるミヤギフトシ、iPS細胞によって将来可能になるかもしれない同性カップル間に誕生する子どもをテーマにする長谷川愛。社会の変化、科学の発達の中かで変容するジェンダーや生命の問題に焦点を当て、私たちの未来について考えます。



“2012年から続けている、沖縄における政治やアメリカの存在、そして男同士の関係性にまつわる「American Boyfriend」からの映像作品です。ギリシャ神話の花の妖精クロリス（フローラ）の物語や、モーツァルトのオペラ「アポロとヒュアキントス」、ブルーストの『失われた時を求めて』、レイナルド・アーンの「クロリスに」、沖縄の米軍基地内でドラッグショーを開催する組織の存在など、さまざまな要素が繋がる連作へと発展しました。

境界線を介した関係性ではなく、境界線を設定することで見えづらくなってしまうかもしれない関係性、また、境界線の向こう側にあるかもしれない関係性について考えながら制作しました。”

— ミヤギフトシ

ミヤギフトシ 《花の名前》

2015年 シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サウンド 20分59秒



“iPS細胞の研究が進めば、同性間でも子供を作れるようになるかもしれない。その時いったい誰がどのように、この技術の使用の是非を決めるのだろうかという疑問が浮かびました。今回の作品は、その決定権を多くの人に解放したいという思いから制作しています。私は、先入観や常識に疑問を持ち、改めて角度を変えて物事をみてゆくという事が好きなので、作品を通して、その楽しさを沢山のひとと共有してみたいと考えています。”

— 長谷川 愛

長谷川 愛

《(不)可能な子供：2015年の受胎告知》

2015年

デジタルプリント 150 × 225 cm

■ 展覧会について

「六本木クロッシング」は、日本のアートシーンを総覧する定点観測的な展覧会シリーズとして、2004年以来、3年に一度の頻度で開催されてきました。森美術館のキュレーターに加え、ゲストキュレーターを招いてチームを作り、議論を重ねてアーティストを選出します。

前回の2013年からは、海外のキュレーターも加わって、さまざまな視点から日本のアートシーンを捉える試みをおこなっています。5回目となる本展では、日本、韓国、台湾のキュレーターが協働します。複数のキュレーターの異なるまなざしによって選出された20組のアーティストの、バラエティーに富んだ表現方法を通して、日本の現代アートを幅広い視野から検証し、今日の社会とアートについて考察します。

今回は、身体や情報、コミュニケーションの今日的な在り方に着目します。いま、グローバル化やITの発達、SNSなどの普及により、人間同士が直に向き合い時間と空間を共有する交流とは異なる、ネットを介したバーチャルなコミュニケーションや情報検索の機会が増大しています。同時に、情報の発信源が爆発的に増え、誰もが社会に影響を与える「発言者」となりうる時代になりました。このことは、自己と他者を隔てる身体の捉え方や人間関係の意識にも影響を与え、これまで当たり前のように考えられてきた社会制度や権力構造、男女の役割などさまざまな価値観に関する見直しが求められています。また、これまで社会において自分が「マイノリティ」と感じていた趣向や考え方についても、情報を介したつながりによっ

プレスリリース

広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

て知識や連帯感を得ることも可能になり、過去の情報の再解釈もまた活発に行われるようになりました。個人の属性や思想、空間、時間を超えて、常識や因習にとらわれない、新たな世界とのつながりの可能性が広がったといえるでしょう。

そんな今日の状況を、アーティストたちは敏感に捉え、従来の制度や多数派の意見に依拠するのではなく、個の事象やストーリーにスポットを当て、独自のリサーチを通して制作に取り組んでいます。その作品からは、歴史や身体、性、風景に対する新たなイメージが現れ、これまで見えなかった他者との関係やアイデンティティの問題、多様化する価値観が浮かび上がってきます。

「私」とは誰だろう。私の身体はどのように歴史や他者とつながっているのだろうか。過去と未来、自己と他者が交錯する感覚を、アートを通して味わいながら、世界と自分との新たな関係性を探ります。

荒木夏実

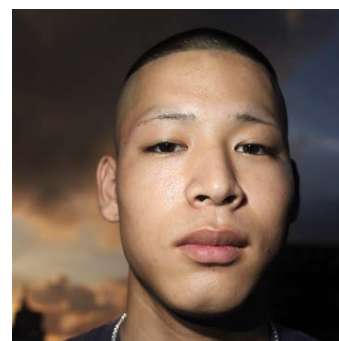
(「六本木クロッシング2016展：僕の身体、あなたの声」共同キュレーター／森美術館キュレーター)



志村信裕
《見島牛》
2015年
シングルチャンネル・ビデオ(8ミリ白黒フィルムをビデオに変換)
20分
Courtesy: Yuka Tsuruno Gallery, Tokyo



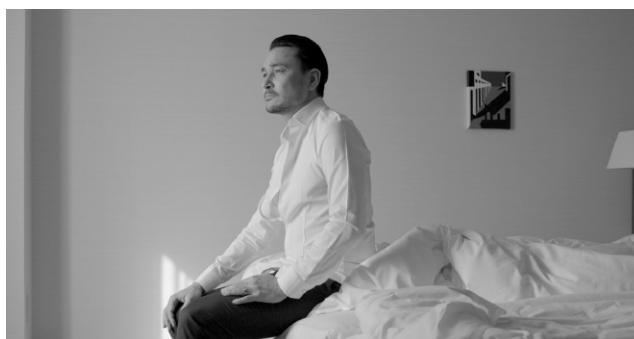
毛利悠子 《モレモレ：与えられた落水 #1-3》
2015年
木材、傘、ホース、ペットボトル、ゴム手袋、バケツ、車輪、雑巾、スポンジ、アクリル樹脂など サイズ可変
展示風景：「日産アートアワード2015：ファイナリスト7名による新作展」BankART Studio NYK、横浜、2015年
撮影：木奥恵三 *参考作品



石川竜一
《OP001208 2011 Ginowan》
〔Fokinawan portraits 2010-2012〕シリーズより
2016年
デジタルプリント
110.8 × 110.8 cm



さわひらき
《カメラの中の男(自画像のための習作)》
2016年
ビデオ・インスタレーション



ジュン・ヤン 《罪と許しの時代》 2016年
シングルチャンネル・ビデオ
Courtesy: ShugoArts, Tokyo; Vitamin Creative Space, Guangzhou; and Galerie Martin Janda, Vienna

プレスリリース

広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

❓ 展覧会関連パブリックプログラム

■「クロストーク2016」 DAY1 ※日英同時通訳付

展覧会企画を担当した4人のキュレーターが展覧会のコンセプトや企画のプロセスなどについて語る「キュレータートーク」、出展アーティストが、作品について紹介する「リレートーク」をおこないます。

日時: 2016年3月26日(土) 13:00-17:30 (開場: 12:30)

会場: 森美術館オーディトリウム

定員: 80名(要予約)

料金: 無料(要展覧会チケット)

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum ※受付終了しました

● 13:00-13:45 キュレータートーク

出演: キム・ソンジョン(アートソンジェセンターディレクター、Samuso ディレクター)

ウー・ダークン(台北国際芸術村ディレクター)

小澤慶介(キュレーター/特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト])

荒木夏実(森美術館キュレーター)

● 14:00-15:30 リレートーク第1回

出演: 毛利悠子、西原尚、さわひらき

モデレーター: ウー・ダークン

● 16:00-17:30 リレートーク第2回

出演: ジェイ・チュン&キュウ・タケキ・マエダ、ナイル・ケティン、ジュン・ヤン

モデレーター: キム・ソンジョン

■「クロストーク2016」 DAY2

出展アーティストが、作品について紹介する「リレートーク」をおこないます。

日時: 2016年3月27日(日) 14:00-18:00 (開場: 13:30)

会場: 森美術館オーディトリウム

定員: 80名(要予約)

料金: 無料(要展覧会チケット)

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

● 14:00-15:30 リレートーク第3回

出演: 藤井光、佐々瞬、高山明

モデレーター: 小澤慶介

● 16:00-18:00 リレートーク第4回

出演: ミヤギフトシ、百瀬文、志村信裕、山城大督

モデレーター: 荒木夏実

プレスリリース

広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■「クロストーク2016」 DAY3

出展アーティストが、作品について紹介する「リレートーク」をおこないます。

日時: 2016年6月12日(日) 13:30-19:00 (開場: 13:00)

会場: 森美術館 オーディトリウム

定員: 80名(要予約) **料金:** 無料(要展覧会チケット)

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

● 13:30-15:00 リレートーク第5回

出演: 松川朋奈、野村和弘 **モデレーター:** 小澤慶介

● 15:30-17:00 リレートーク第6回

出演: 石川竜一、片山真理 **モデレーター:** 荒木夏実

● 17:30-19:00 リレートーク第7回

出演: 後藤靖香、小林エリカ **モデレーター:** 荒木夏実

■トークセッション「未来の家族—科学と生命の可能性—」

※手話同時通訳付

同性カップルの間に誕生する子どもをテーマにした長谷川愛の作品をてがかりに、科学と生命、未来の家族のかたちについて議論します。

出演: 長谷川愛(アーティスト)

スツニ子! (アーティスト、MITメディアラボ助教)

牧村朝子(タレント、文筆家)

八代嘉美(京都大学iPS細胞研究所上廣倫理研究部門特定准教授)

モデレーター: 荒木夏実

日時: 2016年5月14日(土) 14:00-16:00 (開場: 13:30)

会場: 森美術館 オーディトリウム

定員: 80名(要予約) **料金:** 無料(要展覧会チケット)

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

*本プログラムは「東京アートウィーク2016」の一環として開催します。

■トーク「アーティストは戦争とどのように向き合ってきたのか」

※日英同時通訳付

アーティストが戦争や過去の記憶とどう向き合ってきたのか、を同じ第二次世界大戦の敗戦国であるドイツと日本の事例を比較しながら議論します。本展出展アーティストについても同テーマの視点から語ります。

出演: ウルスラ・シュトレーベレ(ベルリン芸術大学美学美術史博士課程在籍研究員、作家、キュレーター)

荒木夏実

日時: 2016年4月25日(月) 19:00-20:30 (開場: 18:30)

会場: 森美術館 オーディトリウム

定員: 80名 **料金:** 無料(要展覧会チケット)

お申し込み: 不要(当日先着順、直接会場へお越しください)

プレスリリース

広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■ 中高生プログラム「アーティストと出会う」※日本語のみ

森美術館「六本木クロッシング2016展:僕の身体、あなたの声」と、東京都現代美術館「MOTアニュアル2016:キセイノセイキ」展を鑑賞する、中高生向けの2日間のプログラムです。鑑賞後は、それぞれの展覧会に参加しているアーティストの小泉明郎と藤井光と一緒に、アートと社会の関係について語り合います。

出演: 藤井光(アーティスト)

小泉明郎(アーティスト、東京都現代美術館「MOTアニュアル2016」展 出展)

日程: 2016年4月24日(日)13:00-16:30 東京都現代美術館「MOTアニュアル2016」展鑑賞

2016年5月29日(日)10:30-15:00 森美術館「六本木クロッシング2016展」鑑賞

対象: 中学生、高校生

料金: 無料(交通費は自己負担)

定員: 15名程度(要予約、先着順)

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

* 2日間ともにご参加いただける方のお申込みをお願いしております。

■ ギャラリートーク ※日本語のみ

森美術館スタッフが、展示室内でツアー形式のトークをおこないます。

日時: 2016年4月13日(水)19:00-20:00

4月27日(水)14:00-15:00

5月18日(水)14:00-15:00

6月1日(水)19:00-20:00

6月15日(水)19:00-20:00

6月29日(水)19:00-20:00

会場: 森美術館展示室内

定員: 各15名程度

料金: 無料(要展覧会チケット)

お申し込み: 不要(当日先着順、展覧会場入口にお集まりください)

■ 手話ツアー

手話と言葉で展覧会を楽しむツアーです。手話をお使いにならない方も気軽にご参加ください。

日時: [第1回] 2016年6月24日(金)19:00-20:00

[第2回] 2016年7月2日(土)10:30-11:30

会場: 森美術館展示室内

対象: 一般

定員: 各10名(要予約)

料金: 無料(要展覧会チケット)

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum または、ファックス(03-6406-9351)

プレスリリース

広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■ 学校と美術館のためのプログラム ※日本語のみ

展覧会の紹介とともに、アートと子どもたちの教育について、先生と美術館スタッフがディスカッションします。社会の今と私たちの姿を鋭く映し出す現代アートに向き合ってみませんか? 図工や美術のみならず、他教科の先生もぜひご参加ください。

日時: 2016年5月20日(金) 18:30-21:00

会場: 森美術館 **対象:** 保育園、幼稚園、小・中・高等学校、大学、専門学校の先生

定員: 15名程度(要予約) **料金:** 無料

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

■ とびだす学校ツアー

作品鑑賞を子どもたちや学生たちの学びに取り入れてみませんか? 授業などの一環として展覧会をご覧いただくツアーです。

対象: 保育園、幼稚園、小・中・高等学校、大学、専門学校

定員: 1回50名まで(ギャラリートークの場合) *それ以上の場合は、ガイダンスやレクチャー形式などご相談に応じます。

料金: [保育園、幼稚園、小学校、中学校] プログラム費無料、入館料無料

[高等学校] プログラム費無料、入館料1人500円

[大学、専門学校] プログラム費無料、入館料1人1,000円

*引率者はいずれも無料

お申し込み: 森美術館パブリックプログラム

電話: 03-6406-6101(月~金 11:00-17:00) FAX: 03-6406-9351 E-mail: ppevent-mam@mori.co.jp

※お申込みの際には、下記項目をお知らせください。

- ・学校名、学年、人数、ご連絡先
- ・ご希望の来館日時(複数の候補日をお知らせください)

注意事項:

※会場混雑やスケジュール等の事情により、ご希望に沿えない場合もあります。ご了承ください。

※館内には昼食をとる場所はありません。

・出演者は予告なく変更になる場合があります。予めご了承ください。

パブリックプログラムに関するお問い合わせ:

森美術館 パブリックプログラム

Tel: 03-6406-6101(月~金: 11:00-17:00) Fax: 03-6406-9351 E-mail: ppevent-mam@mori.co.jp

関連商品

■ 展覧会カタログ

[論考執筆者]

荒木夏実(森美術館キュレーター)

キム・ソンジョン(アートソングェセンターディレクター、Samusoディレクター)

小澤慶介(キュレーター/特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト])

ウー・ダークン(台北国際芸術村ディレクター)

サイズ/ページ数: A4 変型(28.2 × 21cm)/208ページ(予定)

言語: 日英バイリンガル **価格:** 未定 **発売日:** 2016年5月中旬(予定) **制作・発行:** 森美術館/フィルムアート社

プレスリリース

広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

【同時開催】会期：2016年3月26日(土)ー7月10日(日)



MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから選りすぐりのシングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

MAMスクリーン003:交差する視点ー海外アーティストたちが見た日本の風景

企画：荒木夏実(森美術館キュレーター)

キム・ソンジョン(アートソングジェセンターディレクター、Samusoディレクター)

小澤慶介(キュレーター／特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト])

ウー・ダークン(台北国際芸術村ディレクター)

「MAMスクリーン003」は、同時開催となる「六本木クロッシング2016展：僕の身体、あなたの声」の共同キュレーター4名によって選ばれた、映像作品を紹介します。多様な視点から日本を見つめる試みとして、海外のアーティストたちが見た日本の風景に焦点を当て、東日本大震災や戦争の記憶、街角の景色など、アーティストが捉える日本の風景の断片が映像となって現れます。

いま、アーティストの活動の場は世界中に広がっており、日本のアートシーンを総覧する「六本木クロッシング」で紹介するアーティストの拠点も日本国内に留まりません。「日本」を規定することそのものが難しくなっているともいえるでしょう。海外のアーティストの視点を通して、気づかなかった日本の一端を発見することができるのではないのでしょうか。



アーノウト・ミック
《段ボールの壁(スクリーニング・バージョン)》
2013/2016年 約30分
Courtesy: Carlier Gebauer, Berlin



ジュン・グエン＝ハツシバ
《ホー！ホー！ホー！メリー・クリスマス：イーゼル・ポイントの戦闘ーメモリアル・プロジェクト沖縄》
2003年 約15分 所蔵：森美術館

上映作品

1. ピエール・ユイグ《無題(ヒューマン・マスク)》2014年 19分7秒
2. カールステン・ニコライ《future past perfect pt. 03 (u_08-1)》2009年 3分43秒
3. アーノウト・ミック《段ボールの壁(スクリーニング・バージョン)》2013/2016年 約30分
4. イルワン・アーメット&ティタ・サリナ《エア・ボール》2014年 5分
5. ジュン・グエン＝ハツシバ

《ホー！ホー！ホー！メリー・クリスマス：イーゼル・ポイントの戦闘ーメモリアル・プロジェクト沖縄》2003年 約15分

※当プログラムは約75分で、下記時間より上映開始いたします。

10:00～、11:30～、13:00～、14:30～、16:00～、17:30～、19:00～、20:30～（祝日を除く火曜日 11:00～、12:30～、14:00～、15:30～）

※企画展パブリックプログラム等実施のため、「MAMスクリーン」の上映がない時間帯があります。

詳細は森美術館ウェブサイトをご覧ください。 www.mori.art.museum

プレスリリース

広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館



MAMコレクションは、森美術館の収蔵品を、多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。

MAMコレクション003:スッティー・クッナーウィチャーヤノン—ステレオタイプなタイ

企画：近藤健一（森美術館キュレーター）

「MAMコレクション003」は、国際的に活躍するタイのアーティスト、スッティー・クッナーウィチャーヤノン（1965年生まれ）を紹介します。クッナーウィチャーヤノンは、タイの伝統と現在、歴史や記憶、ナショナリズムや国家のアイデンティティという主題で、ユーモアを含めた作品を制作し、その表現方法は、立体作品、インスタレーション、観客参加型のプロジェクトと多岐に渡ります。

本展で紹介する「ステレオタイプなタイ」は、バンコクの100トンソン・ギャラリーで2005年に発表されたシリーズで、オブジェや絵画、立体作品を教室にみたてた展示室に配置し、「陽気」、「笑顔」といった典型的な「タイ像」とは別のイメージを提示することで、本当のタイの姿とは何かをユーモラスに問いかけるものです。

クッナーウィチャーヤノンは、2002年に福岡アジア美術館の招へいにより福岡に滞在し作品を制作したり、東京都現代美術館「タイ王国・現代美術展 Show Me Thai ～みてみ☆タイ～」(2007年)に出展するなど、日本にもゆかりの深い作家ですが、本シリーズをインスタレーションとして展示するのは、今回が日本初となります。なお4月16日(土)には作家本人が来日し森美術館でワークショップを開催。その記録を展示の一部として公開します。



スッティー・クッナーウィチャーヤノン

1965年バンコク生まれ、在住。1989年、シリパコーン大学美術学部卒業。1992年、シドニー美術大学視覚芸術学部修士課程修了。現在、シリパコーン大学准教授。近年の主な個展に「シャムに憧れ、タイを創出する」(2010年ナンバー1ギャラリー、バンコク)、「政治のない世界」(2012年、ヴァレンティン・ウィリー・ファイン・アート、シンガポール)、主なグループ展に「第2回福岡アジアトリエンナーレ」(2002年、福岡アジア美術館)、「第5回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」(2006年、クイーンズランド・アートギャラリー | ブリスベン近代美術館)などがある。

展示風景：「スッティー・クッナーウィチャーヤノン：ステレオタイプなタイ」
100トンソン・ギャラリー、バンコク、2005年

?! 展覧会関連パブリックプログラム

■ ワークショップ「Dreamflagtory」※本プログラムは英語にて実施します

本展出展アーティスト、スッティー・クッナーウィチャーヤノンと一緒に、個人の持つ国に対するイメージやシンボルの意味について、多角的な視点で探る体験型のワークショップです。自分たちが考えるタイ、日本、参加者の出身国(もしくは好きな国)の国旗をイメージして、3つの旗を制作します。実際の国旗と新たにデザインし直した国旗を比べると、どのような違いが見えてくるかを考察します。

講師：スッティー・クッナーウィチャーヤノン(「MAMコレクション003」出展アーティスト)

日時：2016年4月16日(土)14:00-17:00 会場：森美術館展示室内

対象：6歳以上～大人まで、英語でのプログラムに参加可能な方 ※8歳以下のお子様は保護者同伴にてご参加をお願いします。

定員：10組(抽選/要事前申し込み) 料金：500円(材料費) ※別途、展覧会チケットが必要です。

お申込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

申込締切：2016年4月7日(木) ※抽選結果は2016年4月8日(金)ー11日(月)にメールにてご連絡いたします。

プレスリリース

広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館



MAM
RESEARCH

MAMリサーチは、アジアの現代美術を中心に特定の作家や動向に着目し、歴史的、社会的な文脈とともに考える資料展示です。

MAMリサーチ003:ファンタジー・ワールド・スーパーマーケット

ーインドネシア現代美術のアプローチ、実践、思考 1970年代のニュー・アート・ムーブメントから現在まで

企画：熊倉晴子(森美術館アシスタント・キュレーター)、グレース・サンボー(インディペンデント・キュレーター)

「MAMリサーチ003」は、1970年代にインドネシアに現代美術が誕生するきっかけとなったとされる芸術運動、インドネシア・ニュー・アート・ムーブメント(Gerakan Seni Rupa Baru/GSRBI)を紹介します。この芸術運動は、FXハルソノ、ジム・スパンカットなどの若いアーティストを中心としたグループが、表現主義、リアリズム、抽象画、シュルレアリズムといった西洋的な文脈に基づいた従来のインドネシア近代美術という枠組みから脱することを目指し、1975年に「インドネシア・ニュー・アート」と称した展覧会を開催したことから始まりました。その後も同タイトルの展覧会が1980年代後半まで数回にわたって開催され、1989年にはオーストラリアのパースで最後の展覧会が行われました。

本展では、消費主義、資本主義、ポップ・カルチャーをテーマとし、制作における協働についても考察した1987年の展覧会「インドネシア・ニュー・アート(プロジェクト:ファンタジー・ワールド・スーパーマーケット)」を、約40年前に始まったムーブメントと現在をつなぐ結節点として中心に据え、様々な資料とインタビューをもとにインドネシア美術の過去と現在を検証します。



(左)
「インドネシア・ニュー・アート・ムーブメント」表紙
1979年
Courtesy: FX Harsono, Jim Supangkat, S. Prinka.
画像提供: Collection of Hyphen

(右)
「ファンタジー・ワールド・スーパーマーケット」カタログ表紙
1987年
Courtesy: Taufan S. Ch, Gendut Riyanto, Priyanto S., S. Malela
画像提供: Enin Supriyanto

❓ 展覧会関連パブリックプログラム

■キュレータートーク「インドネシア現代美術の歴史と実践について」※日英同時通訳付

本展共同企画者であるグレース・サンボーが、1970年代のインドネシア・ニュー・アート・ムーブメントから現在の動向まで、約40年間のインドネシアのアートシーンを紹介します。

出演：グレース・サンボー(インディペンデント・キュレーター)

聞き手：熊倉晴子(森美術館アシスタント・キュレーター)

日時：2016年3月27日(日)19:00-20:30(開場：18:30) 会場：森美術館オーデトリウム

定員：80名(要予約) 料金：無料(要展覧会チケット)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

最新のプレス画像は、森美術館ウェブサイトのプレス画像ストックより申請、ダウンロードいただけます。
<https://mam-media.com/jp/press-img>

プレスリリース

広報に関するお問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館